

ボローニャ, ボローネーゼ, and フェラーリ

安倍等思

2010年10月4日から9日に開催された **XIX SYMPOSIUM NEURORADIOLOGICUM** に参加させていただいた。この学会は4年に一度開催される神経放射線学の世界大会の様なものです。今回の開催地はイタリアのボローニャで Marco Leonardi 教授が主催しました。日本では高橋睦正先生が熊本で開催されたことがある学会です。そう言えば, その学会に来ていた Stanford 大学の Dr. Marks に質問をしたのが, 留学のきっかけになったのを思い出しました。さて, 今回は脳神経外科の広畑准教授と山下先生の三人で出かけました。日本からの参加者も 80 名を超えたということを知りました。Leonardi 教授は Interventional Neuroradiology や Spinal Intervention の領域でも有名で今回の学会もそのような色が強く出ていました。

今回の学会で私が興味を持ったのは脳血管障害の病態を血管壁から考えたもので, それに MRI の血管壁の画像がどれだけ役に立つことができるかを考えるべきだと確信できたことと, Ann G. Osborn 先生の印象的な脳腫瘍に関する特別講演です。彼女はスーパースターでした。広い会場が満席になり, 講演が終わったときの拍手喝采と聴衆ががんばろうと思う気持ちを引き出す講演内容に感銘を受けました。

ボローニャはもちろん古い町です。元々は城壁に囲まれたところで主なところには歩いていけます。どこも石畳の道で歩道の上には屋根があり, その上は建物の2階が張り出したような構造になっています。そのため, 雨でもあまり濡れることなく移動できます。フランクフルトからボローニャに入ったのですが, その飛行機の中で隣になったご婦人《名前はクラウディア, 日本にはないけど中国に何か支店をもっているみたいなことを言っていた経営者。私より年上だと思われる》にボローニャで安くていいレストランを知らないかなどと話をしていた時に天気の話になって, ボローニャでは雨の心配はないと言っていたのはこのことでした。折りたたみ傘を持って行っていたのに, 使いませんでした。中心のマッジョーレ広場から10分も歩いたところに2本の斜塔がありその高い方は97メートル, 約500段の階段を登れます。そこからボローニャ全体を見晴らすことができます。階段が浅くて, 降りるときは相当気をつけておく

必要があります。登りもちよっと、しんどいですが、登ることをおすすめします。頂上で心地よい風に吹かれて心拍を整えてから降りてきました。



ボローニャはイタリアでも美食の町として有名なところで、確かにどこでもおいしいイタリア料理が楽しめます。日本でのイタリア料理での印象との違いはニンニクが少ないのにおいしいというところかな。それと、ピザがメニューにないことでした。ワインもしっかりしたものがたくさんありそうでした。赤のスパークリングワインもなかなかさっぱりで食前にビール代わりでいい感じでした。ボローニャが発祥のスパゲッティでボロネーゼと言うのがあります。挽肉とチーズが主な味なのですが、お店毎で麺も味も違います。まあ、久留米ラーメンでもいろいろと違うのと同じことかな。女性にお勧めは **Furula** というメーカーはボローニャが発祥の地らしく、安く手に入るようです。イタリアのメーカーのものは日本での半額という感じでした。

実際の滞在は3日間でしたので、半日を使って鉄道とバスを利用してモデナ経由でマラネッロというところに行ってきました。ここはフェラーリの工場があるところで、目的はフェラーリ博物館です。入ってすぐのところにはプロストが乗っていたもの、その後ろにはアレジなんて感じで並んでいます。真っ赤な **F1** マシンが時代を追って並んでいます。その奥の部屋に小さな入り口から入ると右手の壁一面にトロフィーが飾られ、その反対側には扇状に比較的新しいものが並べられていて、心が沸き立ちます。最近のマシンにはブリジストンのマークがついています。タイヤにももちろんですが、ノーズに着いているマークを見たときには、近くの人（香港から来ていた新婚さん）を捕まえて、このメーカーの発祥の地は僕の町だよなんて言ってしまいました。来年からは撤退するらしいですけどね。その博物館の周りでは10分間60ユーロでフェラーリに乗れるよといってイタリア美人が誘いに来ます。行こうと思われる方は国際

免許を持っていきましょう。近くのピザ屋さんに入りやっとピザを食べることができました。大分大学の田上先生と山下先生の三人で行っていたので、二人前頼んだのですが、そこのお姉ちゃんが一人に一つずつ頼めと言うが、かたくなに二つでいいと押し問答をして出てきたのは、薄い生地のものではあったけど大きなものでした。やっぱ、二つでよかった。



ポローニャ大学はヨーロッパ最古の大学です。一応、キャンパスをのぞいてきました。学生は真剣に講義を受けていました。少し離れたところに解剖のための教室があり、見学できるようになっています。大理石の台が中央にあり全周に階段状の座席が配置された部屋です。様々の彫刻が施された飾りが壁から天井までにあります。目立つは2体の皮膚がはがれたので筋肉が露出した木彫りの像です。解剖されていたのは囚人で、死後時間がたって解剖したようです。解剖台には血液が流れるような構造はありませんでした。



今回のもう一つの目的は A380 に乗ることでした。フランクフルトから成田に向かうルフトハンザが A380 です。エアバス製の総 2 階建ての巨大機です。乗ったものは 2 階がファーストクラスとビジネスクラス、1 階がエコノミーでした。

ビジネスクラスの待合室に潜り込んだのですが、なんと待合室から 2 階で、ボーディングブリッジも直接飛行機の 2 階につながります。全く、エコノミーの人とは会わずに入るという構造になっています。私は一人階段を下りてエコノミークラスに移動しました。座った席は前の方



の席（普通の飛行機であれば高級な座席があるところ）でしたので、エンジンの音は小さいと思いました。ビデオのコンピュータが不調で何度かリスタートをしていました。

今回の学会はいつもにもまして刺激的なものでした。出張させていただき難うございました。Leonardi 先生にはオゾンを用いた神経根痛の治療の勉強に行っていないか尋ねたところ、OK はもらってきました。誰か、勉強に行きませんか？ボローニャはいいところですよ。